

(別紙)

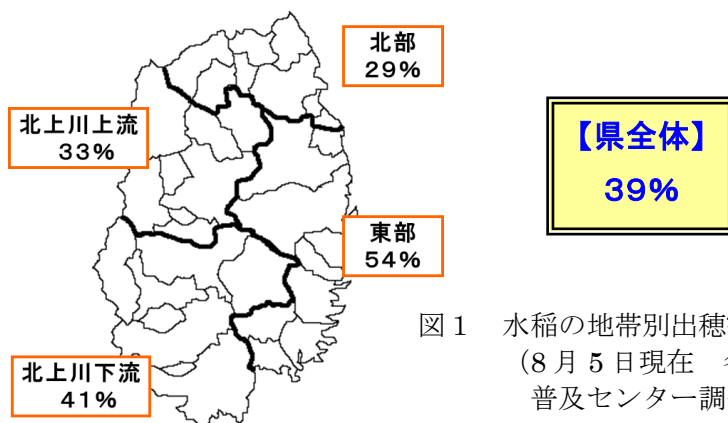
水稻の出穂状況（8月5日現在概況速報）について

- 8月5日現在、県全体で39%の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流33%、北上川下流41%、東部54%、北部29%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は8月3日頃と推定され、平年並の出穂と推定される。

表1 水稻の地帯別出穂状況（8月5日現在 各農業改良普及センター調べ）

農業地帯	出穂割合(%)						出穂時期(月/日)					
	本年	H27	H26	H25	H24	H23	本年		平年		平年差(日)	
							始期	盛期	始期	盛期	終期	始期
北上川上流	33	66	65	18	15	14	8/2		8/3	8/7	8/11	-1
北上川下流	41	90	78	14	33	17	8/3		8/3	8/6	8/10	0
東 部	54	76	60	14	35	6	8/2		8/4	8/7	8/11	-2
北 部	29	68	79	12	9	20	(8/4)		8/4	8/7	8/11	(0)
県 全 体	39	83	75	15	27	16	(8/3)		8/3	8/7	8/11	(0)

- 注) 1 平年値：平成18年～27年の10カ年平均値
2 出穂割合：市町村ごとの出穂している水田の割合
3 出穂時期：市町村単位での判定。始期：10%出穂、盛期：50%出穂、終期：90%出穂
4 出穂割合が10%を超えていても、市町村ごとに到達していないと出穂始期としていないため、北部はまだ始期を確定できない。また、東部も同様に、出穂割合が50%を超えていても、まだ盛期を確定できない。
5 カッコつきの数値は、推定値である。



3 栽培管理のポイント

- 出穂・開花期間は最も水が必要な時期なので、田面が露出しないよう湛水状態で管理する。開花終了後は間断灌がいを基本とする。
- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月4日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%と予想されている。
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入れ替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。用水の状況から可能な場合、掛け流しを行うことも有効である。
- 早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「やや多」の予想である。水稻の生育に合わせ、穂揃1週間後の薬剤防除を徹底すること。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。